立山町立釜ヶ渕小学校

Let's GO!

第４学年　学年だより　２月号

卒業を祝う会へ向けて

３学期も中盤に入り、６年生はいよいよ卒業へ向けて動き出し始める頃となりました。４年生でも、卒業を祝う会でどんなことをするのかについての話合いを行いました。私は子供たちにどんな気持ちを伝えたいかという思いを大切にしてほしいと考え、あえて「出し物」という言葉を使わず、「どんなメッセージを伝えたいか、まずその気持ちをはっきりとさせておこうよ」と投げかけました。すると子供たちからは「いろいろなことを教えてくれてありがとうという感謝の気持ち」「学校のために働いてくれてお疲れさまという感謝の気持ち」「中学校へ行ってもがんばってという応援する気持ち」など伝えたい気持ちが次々と出てきました。祝う会の具体的な内容についてはこれからですが、この気持ちさえしっかりもっていれば、どんな内容であろうときっと６年生にその思いは伝えられるのではないかと子供たちの真剣に話し合う表情から感じられました。

目指せ、百人一首名人

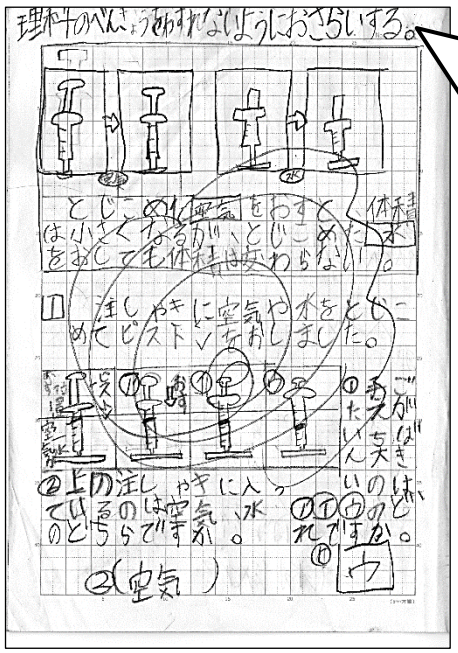
校内百人一首大会は、残念ながら中止となってしまいましたが、４年生は百人一首の暗唱に取り組んでいます。２学期末から、百人一首大会へ向けて取り組み始めたのですが、せっかくだから続けてみようかと子供たちに働きかけたところ、みんなやる気になったのです。渕水タイムや国語の時間の始めの５分間を使って暗唱に取り組み、覚えた歌を順に聞かせてもらっています。昔の言葉や難しい言い回しに悪戦苦闘しながらも、みんな楽しみながら唱えています。

「声に出して読みたい日本語」で有名な明治大学の齋藤孝先生によと、まずは音で覚えるとよいそうですが、私は、４年生ぐらいならば、歌によっては意味を理解した上で覚えるのもよいかと思います。例えば「吹くからに　秋の草木の　しをるれば　むべ山風を　嵐といふらむ」という歌は、字に書くと「…山風を嵐と…」となり、作者が「山＋風＝嵐」という漢字を使った言葉遊びをしたと分かります。また、「まつ」という言葉には「松」と「待つ」の二つの意味がある歌や「ながめ」は「眺め」と「長雨」の二つの意味がある歌など、昔の人もダジャレを言っていたのだよと言うと、子供たちの興味もより高まります。言葉は難しいですが、昔の人も、今の人と考えていたことはそれほど違わないと分かれば、より親しみをもって暗唱に取り組めるのではないかと思います。

最近は、プラス１学習で百人一首の暗唱に取り組み、覚えたい歌をノートに書いてくる子供もいます。声に出して読むことに加えて、字に書き写すことも、覚える上で有効になります。自分に合った方法を見付け、これからも楽しみながら暗唱に取り組み、日本の素晴らしい伝統文化に親しんでほしいと思います。

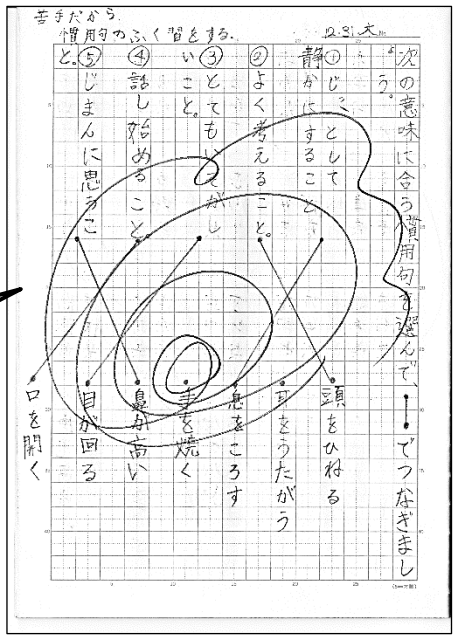
がんばっています家庭学習

冬休みの間も、みんな進んでプラス１学習に取り組みました。普段の学期中とは違い、これまでに学習したことの総まとめや、この季節ならではのことについて調べたものなど、いろいろとすばらしい取り組みが見られました。



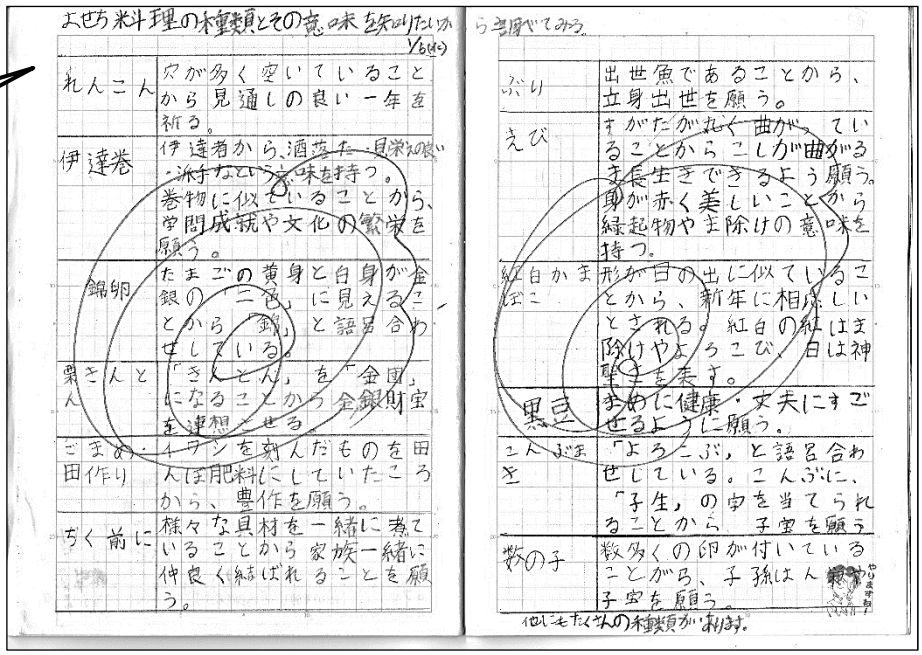
Ｔさん

「理科の勉強をわすれないように」とあります。空気と水の性質についての単元は、１学期に学習したことです。冬休み中にもう一度復習しておこうと考えたのですね。



Ｏさん

「苦手だから慣用句の復習をする」とあります。苦手な慣用句を、作文や日常会話などでも使えるようになりたいと考えたのですね。



Ｓさん

「おせち料理の種類とその意味を知りたいから」とあります。お正月食べたおせち料理のことが気になったのですね。この時期にあった内容で、興味深いですね。